

点検・清掃の地域貢献活動

延べ153人が895カ所を

標識・反射鏡など

金谷部長に結果報告

交通安全施設
作業協同組合



金谷部長（右から3人目）に報告書を手渡す白鳥理事ら

県交通安全施設業協同組合（白鳥和重理事長）は10日、県土整備部を訪れ、災害・建設業担当の金谷隆司部長に、7月に実施した標識・道路反射鏡などの「点検・清掃地域貢献活動」の結果を報告した。組合員企業の延べ153人が895カ所を対象に実施したもので、報告を受けた金谷部長は、「建設業の重要性を地域に周知できる重要な活動。今後も引き続き継続してほしい」と敬意を表した。

県内を5区域に分けて実施した今回の地域貢献活動でブロック長を務めた5人と事務局の金子鉄也専務理事。金谷部長のほか、所管する道路環境課の露寄茂課長、町田英之副課長、石橋和宏企画班長が災害・建設業担当部長室で聞いた。

標識・道路反射鏡などの点検・清掃地域貢献活動は、同組合が毎年実施しているもので、今年で7回目を数える。今回は、夏の交通安全週間に合わせ、7月18日から20日のうち2日間で、①案内・警戒標識、カーブミラー等の清掃および角度調整（脚立程度を利用する範囲の作業）②案内・警戒標識、カーブミラー等の点検等（鏡面の割れや支柱の腐食など）③案内標識の維持管理（マニキュアル案による）一一などに取り組んだ。

県内を5区域に分けて実施した今回の地域貢献活動でブロック長を務めた5人と事務局の金子鉄也専務理事。金谷部長のほか、所管する道路環境課の露寄茂課長、町田英之副課長、石橋和宏企画班長が災害・建設業担当部長室で聞いた。

報告書や調査結果の取りまとめ資料に目を通した金谷部長は、猛暑の中の活動に感謝の意を表するとともに、「防災対策は、県が重点的に進める施策のひとつ。自然災害は天災だが、施設の不備は人災。県民の安全・安心な暮らしへ繋がる重要なもの」と活動への理解を示した。

活動エリアは、県内を▽東葛・葛南地区（高玉秀雄ブロック長・日本ラインサービス株）▽千葉・印旛地区（黒川恵史・印旛地区（黒川恵史））▽香取・海浜地区（林茂樹ブロック長・林産業株）▽外房地区（丸本哲彦ブロック長・株誠和）▽南部地区（茂木和仁ブロック長・株八富企業）一一の5地区に分け、各ブロック長以下、組合員企業が参加している。

報告に先立ちあいさつした白鳥理事長は、組合活動に対する深い理解と助力に対して感謝。組合員25社が一致団結し、より良い県土づくりの一翼を担えるよう各事業活動に取り組む考えを改めて示してから、事務局が活動結果を報告した。

その後、両者間で地域貢献活動の対象路線の選定方法や点検の進捗状況、同組合が推奨している観光立県に向けたランドマーク標識復旧の特性や普及のあり方、海拔表示の設置、標識・区画線の分離発注などについても意見を交換。最後に白鳥理事長、黒川恵史・茂木和仁両副理事長から金谷部長に報告書が手渡された。

15)となっている。

このうち緊急に対策を要するものについては所管の出先事務所に伝え、半期ごとに発注している維持工事で対応する旨の回答を得ていることを説明した上で、厳しい財政の中ではあるが、生命に関わることもあるので、中期的対策が必要なものについても早急な対応を提案した。

報告書や調査結果の取りまとめ資料に目を通した金谷部長は、猛暑の中の活動に感謝の意を表するとともに、「防災対策は、県が重点的に進める施策のひとつ。自然災害は天災だが、施設の不備は人災。県民の安全・安心な暮らしへ繋がる重要なもの」と活動への理解を示した。

その後、両者間で地域貢献活動の対象路線の選定方法や点検の進捗状況、同組合が推奨している観光立県に向けたランドマーク標識復旧の特性や普及のあり方、海拔表示の設置、標識・区画線の分離発注などについても意見を交換。最後に白鳥理事長、黒川恵史・茂木和仁両副理事長から金谷部長に報告書が手渡された。